

押田 憲一 議員



一括質問方式

- ① 市長の所信
- ② 教育長の抱負
- ③ 肱南地区整備
- ④ 治水対策
- ⑤ 阿蔵高山残土処理場
- ⑥ 循環バス運行再開
- ⑦ 南海トラフ巨大地震
- ⑧ JR大洲駅観光拠点整備事業

市長の所信について

問 二宮市長は、様々な選挙公約を掲げておられたが、今後どのように市政運営されていくのか。

答 市長選挙期間中にいただいた市民の皆様からの励ましや市政への要望などの声にお答えできるように、清水前市長が掲げてきた3つの

C、「チェンジ」「コラボレーション」「チャレンジ」に、市民の皆様との対話と情報発信の意味を込めた「コミュニケーション」のCを、まちづくりの基本姿勢として、郷土に誇りを持てる活力ある大洲市を目指し、まさに4つのCによる四輪駆動で、力強くまちづくりを進めるため、全身全霊をもって市政運営に取り組んでいく所存です。

現在、人口減少、少子化、長寿化が進展し、社会保障費の増大、公共施設やインフラの老朽化対策、自然災害への備えと、本市を取り巻く社会情勢も大きく変化し、自治体の方が問われています。

このような厳しい時代を乗り越えていくために、第2次大洲市総合計画や、大洲市まち・ひと・しごと創生総合戦略を基本としながら、5つの柱をまちづくりの目標として掲げ、市政の発展に努めていきたいと考えています。

教育長の抱負について

問 東山教育長は、教育、文化、学術など、多方面において識見を持たれ、過去においても、民間企業

で活躍された時期もあるとのこと、頼もしく思う。

いじめや不登校の解決など、問題は山積しているが、教育長の今後の抱負について伺います。

答 本市においては、昨年3月に策定された第2次大洲市総合計画を踏まえ、本年2月に平成30年度からの4年間を対象とした大洲市教育大綱を策定しました。

この大綱における「ふるさと大洲を愛する人づくり」の基本理念のもと、未来を拓く子供の育成、生涯学習の推進と文化・スポーツの振興、豊かな学びを支える教育・環境づくりの3つの基本目標を達成するため、様々な施策、事業を展開していきます。

また、安全・安心な教育環境を構築するため、学校施設の耐震対策の完了時期を1年前倒しするなど、強力に事業を推進するとともに、公民館改築事業に着手します。

昨今の教育を取り巻く状況の変化は目まぐるしいものがありますが、課題を一つ一つ着実に解決し、教育行政の責任者として、全身全霊をかけて、与えられた使命を果たしていく所存です。

治水対策について

問 昨年9月の台風18号では、久米川上流域における短時間での豪雨により、西大洲地区で浸水被害が発生した。

この災害を受け、河川管理者である愛媛県や本市では、適正な樋門操作や水位計の導入なども必要と思うが、どのような対策や検討を行っているのか。

答 現在、国、県の樋門等操作のための水防団待機水位については、基本的に大洲第2水位観測所の水位により設定されています。

本市としても、県に対して久米川独自の水防団待機水位を検討し、樋門等操作にあたる基準を設定するよう要望しており、現在、県において久米川での基準を設けるための検討を行っていると同っています。

また、久米川の水位計は、上流の平野水位観測所が1カ所設置されておりますが、さらなる河川情報の提供を強化するため、現在、久米川橋付近に低コストな危機管理型水位計の設置を要望しています。